

TOHO Girls'
**Dual Language
Program News**
2016.1 No. 4

私達は、これからのグローバル時代には、「違いを超えて、繋がる力」を持ち、「異なった背景を持つ人に共感し、協働できる」人材が求められていると考えます。そのために、これから社会に巣立つ若者には「広く共有されている論理に則ったコミュニケーション能力」が必須です。桐朋女子では、Dual Language Program (DLP) において、世界で通用する「論理的思考力」を育成し、時代をリードする女性を育てます。

DLP の 3 つの柱

キーワードは
「ロジック」「発信力」

ことばの力
の育成

世界を
読み解く
力の育成

高度な
英語発信
の実践

特集：「言語技術教育」授業研修

2016 年度の「言語技術教育」開始に向けて

中学 3 年生・高校 1 年生の英語の授業で週 1 時間、欧米における Language Arts（言語技術）を学び、「情報伝達の技術」「論証・プレゼンテーションの技術」「討論・議論の技術」「情報の分析・解釈の技術」の訓練を日本語で行い、英語につなげます。討論によって進み、作文によって完結する、生徒主体の授業を通して、世界標準の言語力を育成します。現在、来年度の授業開始に向けて、中学 3 年生の有志生徒の協力を得て、言語技術の授業研修を行っています。ここでは、その内容例と受講した生徒の声をご紹介します。なお、本校の言語技術教育は、本校卒業生の三森ゆりか氏が代表を務める「つくば言語技術教育研究所」と連携して運営いたします。

言語技術の授業の内容例

- ・「文字を書くとしたら、鉛筆とボールペンのどちらを選びますか？」
⇒討論を通して意見の整理を行った後、200 字程度の意見文を執筆します。
- ・「今から読み聞かせる物語を、誰かに伝えるように再現してもらいます。」
⇒2 回物語を聞いた後、その内容を原稿用紙に再現します。
- ・「フランス共和国の国旗を知らない人が、それを頭の中で描けるように、説明しましょう。」
⇒討論を通して情報の整理を行った後、200 字程度の説明文を執筆します。



▲言語技術の授業研修の様子

受講した生徒の声（一部抜粋）

- ・自分の頭の中で考えていることを正しく分かりやすく相手に伝えることがこんなに難しいことだとは知りませんでした。
- ・自分が知っているから相手も知っているだろうという常識を取り払って物事を見ることが大切だと分かりました。
- ・今まで作文を書くのが苦手でしたが、言語技術の授業を受けて、言いたいことを的確に書く方法が分かりました。
- ・伝えたいことを整理することで、次々と作文に書くべき内容が頭に浮かんできて、不思議な感覚でした。
- ・自分の意見を授業中にどんどん言ってよいので、楽しかったし、意見を主張することに慣れました。
- ・実際に授業を受けてみて、言語技術は英語だけではなく他の教科の学習にも応用できることが分かりました。